

# 令和 6 年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	3 5	学校名	県立鉾田第一高等学校					課程	全日制課程			学校長名	飯山 美都子				
教頭名	池田 龍夫										事務(室)長名	小松崎 友洋					
教職員数	教諭	5 1	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	3	実習教諭、実習講師、実習助手		1	事務職員	4	技術職員等	4	計	66
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計		クラス数		
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科		120	120	104	122	115	114			339	356	18				
	科																
科																	

## 2 目指す学校像

<p>高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備えた生徒</p> <p>グローバルな視点と行動力を持った生徒</p>
--

## 3 三つの方針 (スクール・ポリシー)

<p>育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>①グローバルな視点を持ち、国内外の各分野のリーダーとして未来を牽引できる人財の育成</p> <p>②地域社会の発展に核となって貢献できる人財の育成</p> <p>③高い知性、たくましい気力、礼節を重んじる人間性を備え社会に貢献できる人財の育成</p> <p>&lt;本校生の未来の例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公的な機関で社会を支える</li> <li>・医療従事者として社会を支える</li> </ul>
---	---

別紙様式 1 (高)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・起業して社会を支える</li> <li>・企業内のリーダーとして社会を支える</li> </ul>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒一人ひとりの多様な学習ニーズに対応する</li> <li>②生徒の主体的な学習活動、探究活動を重視する</li> <li>③未来を牽引するための進路実現に向けた高度な学力を身に付けさせる (理工・医療・社会科学の分野のカリキュラム・マネジメントの充実やプロジェクトの実施)</li> </ul>
<p>入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①様々な分野に興味を持ち、主体的に探究しようという意欲のある生徒</li> <li>②地域の諸課題に関心を持ち、主体的な探究によりその諸課題を解決しようと努める生徒</li> <li>③主体的に自分の進路実現を目指し、壁を乗り越え、日々努力する生徒</li> </ul>

4 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数授業・習熟度別授業や家庭学習用の課題において生徒の理解度に合わせた取り組みを設定しており、約6割の生徒は基礎的基本的な学習に対して意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・基礎的基本的な知識・技能を用いた課題解決的な学習への指導体制については構築中である。</li> <li>・授業において、必要に応じたICTの活用は充実しており、生徒の学習におけるICT活用意識は高まっている。</li> <li>・プログラミング的思考、統計等に関する知識・技能を身に付けたICT人材育成に繋がる指導体制は、構築中である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の思考力、判断力の向上に繋がるICT機器の活用や対話的な学習形態を取り入れた課題解決重視型授業による、より深い学びに繋がる指導法の研究。</li> <li>・個別最適な課題の設定システムの構築。</li> <li>・ポートフォリオや振り返り等を通して生徒各々が自分自身の学習の理解度や学習状況についてメタ認知し、よりよい方向に修正するなど自らの学習について調整する力の育成。</li> </ul>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・約9割の生徒が大学進学を希望しているが、目的意識が希薄なまま、安易に進路選択をしている生徒も見受けられる。</li> <li>・学校推薦型選抜や総合型選抜で早めに進路先を決めようと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の将来の在り方生き方を含めた進路意識の高揚を図り、多様な進路希望に対応できるよう単位制の利点を活かしたきめ細かい指導体制</li> </ul>

別紙様式 1 (高)

	<p>する安全志向が強く見られる一方で、難関大学にチャレンジする生徒、国公立大学の後期試験まで諦めずに受験する生徒も多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立大学に72名が合格し、その内県内国公立大学に38名の生徒が合格した。</li> <li>・私立大学には延べ 323 名が合格し、都内難関私立大学(G-MARCH 以上)に 19 名が合格した。</li> </ul>	<p>の構築。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入学共通テストについての情報収集、思考力を高める指導による得点力のアップ、および国公立二次試験や私立個別試験に向けた指導の充実。</li> <li>・最後まで第一志望を諦めず、主体的に目的意識を持った進路決定に繋がる支援。</li> <li>・小論文指導や面接指導の充実による様々な入試方式への対応。</li> </ul>
生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素直で真面目な生徒が多く、概ね落ち着いた学校生活が送れている。</li> <li>・貴重品の自己管理および組織的管理が徹底されず、貴重品の紛失が発生。</li> <li>・スマートフォンの利用は、概ね適切になされているが、「ながらスマホ」などマナーに欠ける生徒や「スマホ依存」の生徒が見られる。</li> <li>・悩みを抱える生徒が増加傾向にあり、組織的な心のケアの必要性。</li> <li>・原付バイク通学者の登下校時の交通事故の発生。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己指導能力を高めるための支援の継続。</li> <li>・貴重品管理方法のルール化。</li> <li>・マナー・モラル・ルールを守った SNS の適切な利用に向けた支援の継続。</li> <li>・専門家による支援およびチーム銚一での支援。</li> <li>・定期的な交通支援の実施。</li> </ul>
開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページやフェイスブックで常時最新の情報発信を行っている。</li> <li>・スクールガイド等の作成やオープンキャンパス、学校公開授業を通じての広報活動を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議員制度の活用やホームページ、アンケートなどの広報広聴活動を工夫し、家庭・地域社会との連携を目指したより効果的な活動。</li> </ul>
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 5 年度は、在校等時間が月 45 時間を超える教員の割合は 28.8%、月平均在校等時間は約 35 時間であった。ICT</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務内容や教材の共有化、ICT機器のより効率的な活用。業務の精選による無駄な業務の</li> </ul>

別紙様式 1 (高)

	<p>の活用や業務の効率化をはかり、働き方改革をさらに進めていく必要がある。</p>	<p>スクラップ化。          ・協働的業務運営により、教員が生き生きと働ける体制の構築。ラインケア、セルフケアによる高ストレスの軽減。</p>
--	--	--

5 中期的目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTの活用を含めた教科指導の充実を図り、主体的・対話的で深い学びを推進する。</li> <li>・確かな学力を身につけさせるため、カリキュラムの検証を図り、生徒の多様な希望に応える指導体制を充実させる。</li> <li>・キャリア教育や探究活動に重点をおいた教育を展開し、自己の生き方や在り方に対する考えを深め、様々な課題に向き合い、挑戦する力を育む。</li> <li>・学校行事や部活動・特別活動を通して、主体性や豊かな人間性を育み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成していく。</li> <li>・広報活動の充実や学校評議員制度の活用など家庭・地域社会との連携を図り、保護者・地域社会の期待に応える学校づくりを進める。</li> <li>・教職員一人一人が勤務時間についての意識改革に努める。</li> </ul>
--

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
<p>基礎学力・授業の質の一層の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じてICT環境を活用して学習活動の充実を目指すとともに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と評価の見直しを図る。</li> <li>・授業における基礎的基本的な学習を基に、課題解決型の学習に繋がるよう指導を工夫し、平日の最低学習時間＝学年＋1時間を目指す。</li> <li>・基礎基本を定着させ、課題解決学習に繋がる知識、技能の充実および継続的な学習姿勢の育成を図る。</li> <li>・教員間の授業参観と観点別評価の研究をなお一層推進し、職員の指導力及び授業</li> </ul>

別紙様式 1 (高)

	<p>の質の改善に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講習や研修会等を活用することで教科指導力向上に繋がる情報を収集し、共有を図る。</li> </ul>
<p>個に対応した指導の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒観察やICT機器の活用等により生徒の実態を的確に捉え、個別最適な学びの促進とともに観点別評価を踏まえた指導の充実を図る。</li> <li>・達成可能な目標や題材の設定を行うなど生徒の学習意欲を喚起する授業の工夫を通して、習熟度別授業の指導を充実させる。</li> <li>・少人数授業は対話をベースとし、生徒一人一人が主体的に授業に取り組めるよう授業方法の創意工夫を行う。</li> <li>・振り返りやポートフォリオ等の蓄積により、生徒自身が各自の課題を把握したり、自己の学習を調整したりする力を身につけさせ、学習改善に繋がる自己指導能力の育成を図る。</li> </ul>
<p>進路意識・進路実績の一層の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校における進路指針の徹底を図り、職員一丸となって生徒の進路意識の高揚および進路目標の達成につなげる。</li> <li>・各年次の進路行事の意義を十分に理解させ、自己の在り方生き方について考えさせる。</li> <li>・生徒との個別面談を充実させ、進路目標を明確化させる。</li> <li>・新課程入試に対応するため、大学説明会や入試分析会等に積極的に参加し正確な情報収集を行い、進路支援に活用する。</li> <li>・国公立大学・難関私立大学の合格者数増を目指す。</li> </ul>
<p>特別活動・部活動の一層の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事への積極的参加を促し、HR・生徒会・委員会の活動で主体的に取り組み、社会に貢献できる人材、グローバル社会で活躍できる人材を育成する。</li> <li>・部活動においては、限られた時間で工夫した指導を行い、県大会以上の大会に出場できる部や生徒数を増やす。</li> <li>・学校行事後に感想をまとめ、キャリアパスポート等を利用することに</li> </ul>

別紙様式 1 (高)

	<p>より、学びを蓄積するとともに振り返りを行う。</p>
<p>自己指導能力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃から生徒と接する機会を多くもち、生徒が教員と相談しやすい関係を構築するとともに生徒理解に努め、すべての教育活動を通して生徒の観察等を行うことで、生徒の変化を敏感に察知し、適宜、適切な支援を講じる。</li> </ul>
<p>学校評価の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価の内容や評価方法・評価対象等を検討する。</li> <li>・学校評議員制度などを通して家庭・地域社会の本校への要望や期待を把握し、生徒の探究活動と連携しながら新しいイメージを発信していく。</li> <li>・ホームページやアンケート等の広報広聴活動について、ICTを駆使してさらに工夫し、充実させ、学校を活性化させる。</li> </ul>
<p>働き方改革</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の目的と目標を明らかにし、効果的な教育活動を行う。業務の精選も行い、スクラップを積極的に推進する。</li> <li>・ICT活用等を推進し、事務作業の効率化や教材の共有化を進める。</li> <li>・教職員一人一人が自身の働き方についての意識を高め、仕事と私事ともに大切にしながら、生き生きと職務にあたることができるよう努める。</li> </ul>
<p>授業改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒による授業評価アンケートにおける「先生はICTや板書、資料などを効果的に活用する等、教え方を工夫している。」の質問項目で、校内の平均値を3.6以上にするため、校内授業参観や教科内研修を活性化させる。</li> </ul>